

] i0 5r

~~W~~

~~W~~

9x Ø%o μ" + i d 2 b0E#i +0[

~~W~~

~~W~~

p N <7 (W

-5 ¾j (W

,15 ,e (W

- N (W

W (W

J > &%o(W

~~W~~

O[ α :

4 w \_ > E o b9x9 ? }4 w l6ä\$. @ d >\*4 w + i b9x 9x & Øi b • A @ q\$.  
\_ ^ W Z A S ] i0 5r>& 4>' \ ' ' i Ûd >& 4>' c „ [9x 9x& Ø + i 3¿3ÿ>\*  
óo>\* -5 \_j)% [ A d 2 b6ä\$. 4 u Z A S d 2 c -) s K S5r9μS4 />&>Q>'  
\_>\* 6 } ? L u ~ /æ K>\*O¿ μp < S Ýi Ò§ < Ø%o μ">&>S>' ) 3, t9x 7  
+ i b O¿ 2 [ 6 t W d 2 b"l'>\*>Q \>S b ö \$x ^ z m > | g p i W Ó° ¿  
μ" " ' \_ | >/>27u 7 + i b0t 8O¿0E \_ X 8 Z) ÓM

~~W~~

~~W~~

~~W~~

~~W~~

~~W~~

~~W~~

~~W~~

~~W~~

~~W~~

~~W~~

~~W~~

~~W~~

~~W~~

~~W~~

~~W~~

~~W~~

~~W~~

~~W~~

~~W~~

~~W~~

Master Plan of Construction Method for Multi-Storied Apartment Houses

by Combining Steel Structures with Room Size-IL-8 Houses

中原利雄\*

Toshio Nakahara

大野勝彦\*\*

Katsuhiko Ono

荻野 芳 雄\*\*\*

Hideya Ogino

宮下 巖\*\*\*\*

Iwao Miyashita

Yasumitsu Odera

武井 秀文\*\*\*\*

Hidehumi Takei

Synopsis:

With the exploding population of cities, the voices calling for an early re-development of urban areas have been gathering strength year after year. Under this pressure, the buildings for housing the citizens have now taken a definite turn for a more and more towering height above ground as well as

造形式の研究開発を進め、Hフレーム、DHSな 自の企業的立場から研究開発してきた製品、すな

ルームユニットはほぼ100%工場で生産され、工  
場付加価値の向上、住宅用建築部品の標準化による

種類かの組み合わせができるようにする。

メント)である。ストラクチャーは中高層および超

### ストラクチャーと現場アセンブリー

的な役割である、さらにシステムビルディングと  
しての部品化建築においては汎用性、生産性など  
次の特徴に列記するようないくつかの重要な役割  
を持っており、建築形式やルームユニットの発展  
と歩調を合わせてバランスのとれた工業化と付加  
機能のコントロールがなされなければならない。

マティクに組み込むための基本モジュールを  
そなえる。

- (2) ストラクチャーにはルームユニットのプレ  
ハブ化のレベル向上に合わせて構造的な合理  
性の追求はもちろんのこと、さらに構法およ  
び工法システムとしての合理性、量産性をも

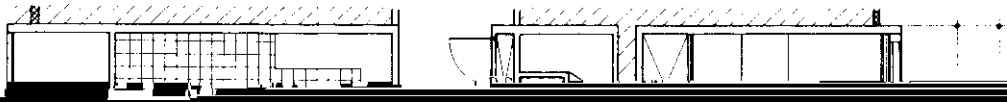
ブリーには、それぞれ次のような特徴を持たせて  
いる。

- (3) ルームユニットの工場付加価値を高め、よ  
り大きな量産効果が得られるように、ストラ

クチャーの耐火被覆はルームユニットのビル







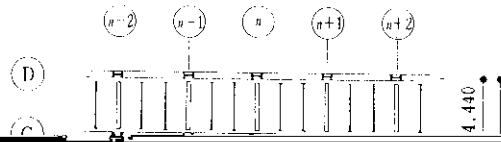
トを図4, 平面図のようにスキップの中廊下メゾネットタイプに組み合わせた。この結果各住戸は

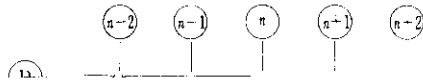
構造として壁パネル, 天井パネルなどビルディング

南に面した室を設けられ日照や南北通風など日本の気候に合った居住性の高い住宅が得られると見られる。地下型も取り入れられ、エレベーター

のものよりルームユニットの機能やルームユニットの組み合わせによる平面計画のバリエーションが期待できる。また、エレベーター







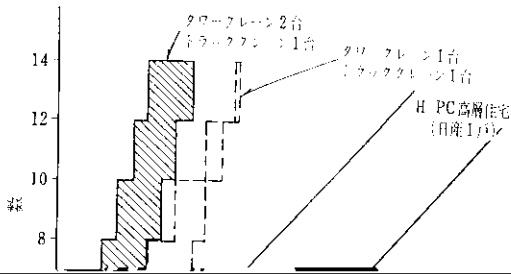
[Redacted text block]

[Redacted text block]



主なアセンブリ作業は次のようになり、現場の

作業は、エレベーターホール、エレベーター、エレベーター、エレベーター



るシステム化を図ればアセンブリーは約10週、その他基礎工事や雑工事を含めた、全工期は約7ヶ月程度が想定され従来工法から大幅に工期を短縮できる。

#### 4. む す び

S.K.ユニット工法の基本計画は1971年9月で